

【成長戦略課題】

ニホンジカ出没に関する時系列予測手法の開発（R7-9）

富士山科学研究所

背景・目的

1.シカの影響が深刻化

富士山高山帯の代表的な植物オンタデの80%以上が採食されており、生態系・生物多様性の損失が進行

2.シカの観測から活用へ

観測網によりシカの分布がリアルタイムで把握可能となった。AIによる出没予測を開発することで、猟友会等への速やかなデータ提供が可能となり、捕獲効率向上が期待

3.研究の展開

R4-6
観測網の開発によりリアルタイム観測が可能

R7-9(研究目的)
シカ出没のAI予測とデータ連携による管理・活用の推進

①センサーカメラ



画像転送

②AIによるシカの検出

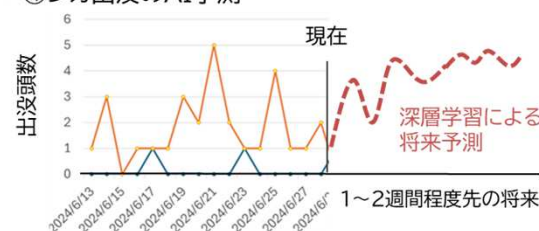


可視化

③直近1か月の日平均出没頭数



④シカ出没のAI予測



⑤管理・活用の推進

猟友会等への速やかな情報提供

研究内容

R7

R8

R9

目標1. シカ出没の時系列予測手法の開発

リアルタイム観測体制の維持管理

衛星画像・GISデータ等の整備

時系列予測手法の開発

目標2. シカに関するデータ連携の推進

狩猟関係者が必要とするニーズの把握

要素技術の整備・データ連携推進

期待される効果

シカの管理捕獲の推進と富士山の生物多様性保全の両立

- 「シカ出没予報」の提供：近い将来の出没を予報として関係団体に提供することで、シカの捕獲効率を向上させ、管理捕獲を推進するとともに、富士山での生物多様性保全を推進
- 高い拡張性：観測網を拡張することで県内各地で情報提供が可能、将来的に様々な地域での導入が期待